

Yarrowia lipolytica による菌血症の一例

◎新井 伸介¹⁾、高野 翔平¹⁾、根崎 栞¹⁾、吉川 弘美¹⁾、篠崎 ひとつ¹⁾、福島 由美子¹⁾、関口 芳恵¹⁾
総合病院土浦協同病院 臨床検査部¹⁾

【はじめに】*Yarrowia lipolytica* は土壌や汚水等の環境や一部食品に加え、口腔、腸管、皮膚にも存在する。カテーテル関連血流感染症の報告が散見されるが、本邦での報告は少ないため、我々が経験した菌血症例を報告する。

【症例】70代男性。食道癌術後の腹膜播種・腹壁再発に対して緩和的化学療法中で、熱源不明の40℃の発熱で入院となった。Compromised hostでありMEPMを開始したが、入院時の血液培養からCNSが検出されたためカテーテル関連血流感染を疑いVCMを追加し、CVポートを抜去した。第6病日の血液培養ではCNSは陰性化したが、新たに酵母様真菌が検出されMCFGを追加した。第12病日の血液培養では培養陰性であったが、断続的な発熱が持続したため第24病日にF-FLCZに変更した。その後も発熱改善なく、第30病日にL-AMBに変更したが発熱は続き、第30病日の血液培養から再度酵母様真菌が検出され、MCFGに再変更した。精査の結果*Y. lipolytica*と同定され、感染症専門医の推奨で第50病日からMCFG+L-AMBで治療したところ、解熱が得られ血液培養も陰性化し、第76病日に軽快退院し

た。菌血症 focus は腸管由来が疑われたが特定はされていない。

【微生物学的検査】血液培養はBacT/ALERT 3Dで好気ボトルのみ陽性（陽性化平均時間5day/本）となり、グラム染色で酵母型と菌糸型の形態が見られた。血液寒天培地とチョコレート寒天培地は、48時間で約0.5mmの白色コロニーを形成した。クロモアガーカンジダ培地では72時間で約0.5mmの白から薄桃色コロニーを形成した。API20C AUXを用いた同定試験では、陽性になった全ての血液培養とCVポート株が同じプロファイルを示し、同一菌種と推定された。リボゾームRNA遺伝子領域解析の塩基配列相同性から本菌種であることが確認された。

【考察】治療に苦慮した*Y. lipolytica*菌血症を経験した。菌種を同定することで感染症専門医の治療提案に寄与することができた。同定困難な酵母様真菌も同定精査をする重要性を確認した一例であった。

【謝辞】遺伝子領域解析をして頂いた筑波大学病院感染症科人見重美教授に深謝致します。（029-830-3711,4524）